2015.7.8

うわばき・防災ずきん　『お下がりプロジェクト』

ご協力のお願い

落合第四小学校内学童クラブ父母会　松久良子（3 年 2 組 松久瑚子保護者）

『お下がりプロジェクト』とは、こんなプロジェクトです！

①新宿区内の区立小学校の在校生・卒業生などから、使わなくなった使用可能な『うわばき』や『防災ずきん』を回収する（寄付していただく）
②区内各小学校の「放課後子どもひろば」や「児童館」「図書館」などで保管し、うわばきは貸し出し用に、防災ずきんは緊急時に役立てる　　たったこれだけです。

●具体的な事業の内容としては

【うわばき】
1．回収用の箱を設置し、履けなくなったうわばきを入れてもらう（通年回収）
2．スタッフによる確認・分類（サイズなど）
3．子どもひろばで保管し、貸し靴として使用
4．定期的なメンテナンスとして、うわばきの洗浄を行う（イベントとして子どもに手伝ってもらっても）

【防災ずきん】
1．毎年年度末に卒業生などから防災ずきんを回収
2．スタッフによる確認・調整・分配
3．子どもひろば、児童館などで保管し、貸し出し用に
4．定期的なメンテナンスとして、半年に 1 回程度防災ずきんの確認と清潔を保つための天日干しを行う（これもイベントとして子どもに手伝ってもらう）

●見込まれる経費と手間はこれだけ！

★プロジェクト周知のためのチラシ作り　★保管用の箱など　★定期メンテナンス

●メリット（◎）・デメリット（△）

◎まだまだ履けるのにキツくなってしまったうわばきや、中学に入ったらほぼ使わない（区立中学は生徒数分の防災用ヘルメットが完備されています）防災ずきんをゴミにせず、また役立てることができます
◎放課後子どもひろばに遊びに来た子たちが体育館を利用する際や、外遊びに適さない靴（長靴など）でひろばに来てしまった子のために、安全な遊び用の靴を貸し出すことができます。
◎備蓄防災ずきんの数が利用者数を下回る放課後子どもひろばや児童館、図書館などで、緊急用の防災ずきんがほとんど経費をかけずに確保できます。
◎区内ほぼすべての小学校が災害時、一時避難所として活用されます。そのような場合に、避難されてきた地域住民の方に防災ずきんを使用していただくことも可能です。

◎防災ずきんの回収作業や避難訓練での使用、メンテナンス作業に放課後子どもひろばを利用する子どもたちや保護者有志が参加することにより、防災意識を高めます。
◎区や学校に多大な費用負担を要請することなく、利用者（子ども）や保護者、運営事業者さんに少しのご協力をいただくだけで**持続可能な**プロジェクトです。
△保管場所を確保する必要がありますが、たとえば夜間は子どもひろば室内で保管、子どもひろば開催時には校庭など遊び場の一角に出すなどすれば、死蔵することなく、必要時や緊急時にすぐに使うことができます。

«このプロジェクト発案のきっかけ»

先日、学校内に学童クラブができて、初めての避難訓練が行われました。帰宅後、娘からその時の話しを聞いていたら、娘達は学童の先生に備蓄品である防災ずきんを出してもらってそれを被り、校庭に避難したとのこと。では合同訓練だと言っていた『放課後子どもひろば』で遊んでいたお友だちは？と聞くと「何も被ってないよ」という答えです。同じ学校のお友だちなのに、学童クラブの子には防災ずきんがあって、ひろばの子にはないの？―――そんな疑問が生まれました。

放課後や夏休みなどの学校休業期間のときに、万が一災害が起こったら？　学童の子もひろばの子も入り交じって校庭やひろば室で遊んでいる時に起こったら？　先生方は「キミとキミは学童だから防災ずきんを被って、こっちのキミはひろばだからナシね」と言うのでしょうか。同じ学校のお友だち同士、同じ時間と場所を共有しているのに、こんな差が生じることはおかしなことです。第一、緊急時であればあるほど、それは非現実的な話しです。要するに「放課後を過ごす子どもたちのためには、防災ずきんの数がもっと必要だ」というシンプルな話しです（※）。

家族でそのことについて話し合ったところ、「卒業する 6 年生に、使わなくなった防災ずきんの『お下がり』をもらえばいい！」という結論に達しました。なるほど、それなら費用的な負担もほとんどなく、呼びかけ次第で一度に数十～百枚単位の防災ずきんがすぐに集まりそうです。しかもこのプロジェクトを区内全域に立ち上げて一気に数を集め、調整を行って適正に配分すれば、児童館や図書館などでも安定的に防災ずきんを確保することも可能です。

昨今の防災ずきんはいすの背もたれにかけるカバーつきで、6 年間使っても大変きれいです。年に数回の避難訓練や実際の地震（教室で授業中の場合のみ）で使用するだけで、へたりも汚れもほとんどありません。捨てるには忍びない、でもかさばるので処分したい、というご家庭にとっても、心理的にも大変受け入れられやすいプロジェクトだと思います。

また、目を転じてみれば、履けなくなったうわばきも『放課後子どもひろば』用の貸し靴として再び役立てることができます。愛着のあるうわばきを使ってもらうことで、子どもたちの安全と楽しい放課後に思いを届けることができます。

防災ずきんがあるからといって、必ず安全が確保されるというわけではないとは思います。うわばきも数やサイズが揃わないこともあるでしょう。しかし、不要になるものを集めて保管するだけで、安心度を増し、防災意識を高めることにも役立ちます。「もったいない」をわずかでも具体的な行動につなげることができます。ぜひ多くの皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

※小学校の教室にはそれぞれの子どもたちの防災ずきんがありますが、緊急時に校庭に避難する場合、校舎に戻ってはいけないことになっています。そもそも放課後や長期休業期間は校舎内に立ち入れない場合も多いです。また、子どもひろばはその学校の児童でなくても利用できることになっていますから「教室にそれぞれの防災ずきんがあるではないか」という議論はナンセンスです。
※その後の調べで、子どもひろばにも備蓄用の防災ずきんがあることがわかりました（落四小で 60 枚）。しかしひろばの最大利用者数は 117 人／日。数が必要であることに変わりありません。